

為替週間展望 = ドル円は上下に振幅して方向性を探る展開か

[8月18日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)	8月11日～8月15日			
	始値	高値	安値	終値 前週比
ドル・円	147.67	148.52(12)	146.21(14)	147.15 -0.59
ユーロ・ドル	1.1641	1.1730(13)	1.1590(11)	1.1673 +0.0032

国内株・金利/米国株・金利	終値 前週末比		終値 前週末比	
日経平均株価	43,378.31	+1557.83	日本10年債利回り	1.573 +0.082
ダウ平均株価	44,911.26	+735.65	米10年債利回り	4.285 +0.002

<来週の主要経済統計等>

- 18日 英8月ライトムーブ住宅価格
ユーロ圏6月貿易収支
- 19日 NZ第2四半期生産者物価指数
ユーロ圏6月経常収支
米7月住宅着工・許可件数
カナダ7月消費者物価指数
- 20日 日本7月貿易収支、日本6月機械受注
NZ準備銀行(RBNZ)政策金利
英7月消費者物価指数、独7月生産者物価指数
ユーロ圏7月消費者物価指数確報値
米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨
- 21日 NZ7月貿易収支
独8月製造業PMI速報値、独8月サービス業PMI速報値
ユーロ圏8月製造業PMI速報値、ユーロ圏8月サービス業PMI速報値
英8月製造業PMI速報値、英8月サービス業PMI速報値
カナダ7月鉱工業製品価格
米新規失業保険申請件数、米8月フィラデルフィア連銀景況指数
米8月製造業PMI速報値、米8月サービス業PMI速報値
米7月景気先行指数、米7月中古住宅販売件数
※ジャクソンホール会議(23日まで)
- 22日 日本7月消費者物価指数
英7月小売売上高
独第2四半期GDP確報値
カナダ6月小売売上高

【前回のレビュー】トランプ米大統領による関税関連発言の影響や米経済指標に左右されやすい展開が見込まれる。ドルの上値は重いものの、ドル円が一本調子で一段安になるとは想定しにくく、最近の安値圏を中心とするもみ合いになるとした。

【米生産者物価指数でドル売りの動きが一服】

12日に発表された米消費者物価指数は総合が前年比+2.7%で市場予想の+2.8%を下回った。一方で、コア前年比は+3.1%となり、市場予想の+3.0%を上回った。大方の予想通りの結果との見方から、9月の米連邦公開市場委員会(FOMC)での利下げ期待が広がった。

さらにベッセント米財務長官は13日のブルームバーグとのインタビューで、9月のFOMCで「政策金利を0.5ポイント引き下げるべき」と語った。これは通常の2倍

の利下げに相当する。さらに政策金利は「1.5～1.75ポイント低くあるべき」と一段と利下げを継続するべきとの見解を示した。また、ベッセント米財務長官は日銀の金融政策に関しても言及して、「日銀は後手に回っている。利上げてインフレを制御する必要がある」などと述べた。

1日の弱い米雇用統計を受けてドル円は大幅安となり、その後146円台半ばまで下落した。その水準で下げ止まっていたものの、ベッセント米財務長官の発言などを受けて、ドル売りの動きとなって米雇用統計後の安値を更新して146円台前半まで下落を見せた。

14日発表の7月米生産者物価指数は前年比+3.3%、コア前年比+3.7%といずれも市場予想（それぞれ+2.5%、+3.0%）から大幅に上振れした。前月比もコアととも+0.9%と市場予想（いずれも+0.2%）から大きく上振れしている。この結果を受けて、ドル円は146円台半ばから147円台後半まで上昇している。

なお、14日にベッセント財務長官はFOXビジネスとのインタビューで、「予測モデルによれば、金利を中立水準にするには推定150BPの引き下げになるということで、FRBに利下げを求めたわけではない」などと述べた。前日の発言をやや軌道修正している。

【ジャクソンホールでのパウエル議長の講演に注目】

日米の経済指標やイベントとしては、19日に米7月住宅着工・許可件数、ユーロ圏7月消費者物価指数確報値、米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨、21日に米新規失業保険申請件数、米8月フィラデルフィア連銀景況指数、米8月製造業PMI速報値、米8月サービス業PMI速報値、米7月景気先行指数、米7月中古住宅販売件数、22日に日本7月消費者物価指数などがある。

20日（日本時間21日午前3時）に7月29-30日に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）の議事要旨が発表される。7月のFOMCでは政策金利は据え置きとなっており、今後の利下げに向けて、どのような見解が出ていたかなどが注目される。

21-23日に米ワイオミング州ジャクソンホールで米カンザスシティ連銀主催の経済シンポジウム「ジャクソンホール会議」が開催される。米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長をはじめとして、各国中央銀行の関係者や経済学者などの参加が見込まれている。パウエル議長の講演で今後の利下げに関するヒントが出てくるかが注目される。利下げのヒントが出てくれば、一段のドル売りに傾くこととなりそうだ。

1日発表の7月の米雇用統計が弱い結果となったことで、9月のFOMCでの利下げ観測が高まっており、13日のベッセント米財務長官の発言で、9月のFOMCでの0.5%利下げ確率が10%を超える場面も見られた。その後、米生産者物価指数の上振れなどから、0.5%の利下げ確率はゼロとなった。CME FEDウォッチによると、9月のFOMCでの0.25%の利下げ確率は92%程度で、据え置きは8%前後となっている。

トランプ米大統領に代わって、ベッセント米財務長官の発言が米連邦準備制度理事会（FRB）に利下げ圧力となつてのしかかった。9月FOMCで0.25%の利下げはほぼ確実とみられ、ドルには重石となろう。ただ、今回の米生産者物価指数の上振れのようにトランプ関税によるインフレ圧力の高まりも警戒される。こうした中、ドル円は最近のレンジを中心に方向性を探る動きとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、144.00～149.00円。

【ユーロドルはもみ合いながら上値を追う展開か】

欧州中央銀行（ECB）による年内利下げ確率は50%前後で推移している。7月のユーロ圏消費者物価指数速報値は前年比+2.0%で落ち着きを見せており、ユーロ圏第2四半期GDP改定値は速報値と同水準となった。今後、トランプ関税の影響が警戒されるものの、インフレ率が落ち着き、景気も底堅い動きとなれば、ユーロドルは堅調な推移となりそうだ。

ユーロドルはドルの動きに振り回されたりしながら1.17台前半まで上値を伸ばしてきた。上昇する中で、21日移動平均線を上抜いてきた。引き続きもみ合いながら上値を追う展開となりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1550～1.1850ドル。

英中銀は8月7日の英金融政策委員会（MPC）で0.25%の利下げを決定した。票割れは5対4の僅差となった（利下げ5、据え置き4）。今後も政策金利決定の際に参加者の見解が大きく割れる可能性がある。このため、年内の利下げ確率は60%前後となっている。

ポンドドルは堅調な流れを維持している。7日に21日移動平均線を上抜くと、上向きで推移する5日移動平均線に支持されて、上昇基調で推移している。1.31台前半から1.36ドル近くまで上昇しており、調整の動きも警戒されるが、上昇基調が継続するとみられる。ポンドドルの目先の予想レンジは、1.3400～1.3800ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、18日に英8月ライトムーブ住宅価格、ユーロ圏6月貿易収支、19日にNZ第2四半期生産者物価指数、ユーロ圏6月経常収支、カナダ7月消費者物価指数、20日にNZ準備銀行（RBNZ）政策金利、英7月消費者物価指数、独7月生産者物価指数、ユーロ圏7月消費者物価指数確報値、21日にNZ7月貿易収支、独8月製造業PMI速報値、独8月サービス業PMI速報値、ユーロ圏8月製造業PMI速報値、ユーロ圏8月サービス業PMI速報値、英8月製造業PMI速報値、英8月サービス業PMI速報値、22日に英7月小売売上高、独第2四半期GDP確報値などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービスは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービスが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービス)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。